

小4 「メモの取り方をくふうして聞こう」

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」

－ 目的意識をもって聞き、話の中心をとらえる力を育てるための指導の工夫

日立市立諏訪小学校 鈴木 優子

1 はじめに

「小学校学習指導要領解説 国語編」によると、国語科の改善の基本方針として「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」が求められている。私たちの生活において、相手の話を正しく聞き取り、自分の意志が正確に伝わるように話すことはコミュニケーションの基盤として必要不可欠な能力である。この能力は、もちろん一朝一夕に身に付くものではない。6年間の発達段階を考え、指導要領解説の「3 国語科改訂の要点」にあるように「系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本として」継続的に指導していくことが求められる。

第4学年は、6年間の系統で考えるとちょうど中間の年齢にあたる。聞くことの分野においては低学年で「大事なことを落とさず、興味をもって聞く」ことをすでに学習してきている。このことを受けて、大事だと思う事柄を全て拾う段階から、当単元で、次の段階の「話の中心」に気を付けて聞く学習をし、さらに高学年での「話し手の意図をつかみながら聞く」学習につながっていく。ここでは、何のために話の中心をとらえなければならないのかを実感させたい。そして目的意識をもって集中して考え、話の中心をとらえる力を身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) この学習の直後に、社会科の校外学習が予定されている。浄水場で職員の方の話を聞いて実際にメモを取るようになるので、目的意識をもって学習に取り組むことができるであろう。また、机の上の学習を実際に活用することで、「実生活に生きてはたらく」学習ができたかどうか実感することができるであろう。
- (2) 話を聞きながらメモを取る場合、要点だけを書くのであれば、大人でも間に合わない。「間に合わない」という実感から、要点をつかむことの必要性が理解できるであろう。
- (3) 児童は日常生活の中で、翌日の持ち物などを連絡帳に書くといったメモを書く機会をもっている。しかし、板書を写しているだけであり、自分でメモの取り方を工夫しているわけではない。作文のような文章ではなく、記号などを使ったメモの取り方を工夫する面白さや実用性に気付くであろう。
- (4) 教科書の例や友達のメモを読み合う活動を通して新たな表現の工夫に気付き、より要点をとらえた効率的なメモを作ろうという意識が高まるであろう。

3 実践事例

(1) 学習指導案

1 単元 メモの取り方をくふうして聞こう

2 目標

- ① 話を聞いてメモを取ることに意欲をもち、事柄と事柄の関連を正しく聞き取ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ② 順序や理由を表す言葉に注意して聞き、事柄と事柄の関連が分かるように工夫してメモを取っている。
(話すこと・聞くこと)
- ③ 順序や理由を表す言葉(接続語や指示語)の役割について理解し、聞き取りの手がかりにできる。
(伝統的な言語文化と国語に関する事項)

3 指導にあたって

本教材では、関連する事柄が述べられた話を聞いて、メモを取り、友達とのメモと見比べるという活動を通して、事柄とその理由を聞き取り、工夫してメモを取る力を付けることをねらいとする。

【児童の実態】(男子 21人 女子 16人 計 37人 平成23年6月13日実施)

1	メモを取るときに、記号や絵、図を使って工夫したことがあるか。 ある 6人 ない 31人
2	必要なことだけ選んでメモを取るための、自分なりの技を考えたことがあるか。 ある場合、どんなものか。 ある 5人 ない 32人 ・よいことは○、よくないことは×で書く。 ・数字に注意する。

児童はこれまでも物の様子や話の要点を聞き取る学習をしてきているが、上記アンケートのように工夫まで思い至らず耳に入ってきた言葉を全てメモしたり、目的に合わない内容までメモしてしまったりする児童も少なくない。そこで本単元ではメモを取る際には、必要なことを整理して書けばよいことや、関連する事柄は矢印でつなぐなど、記号を使って整理するとよいことをおさえない。

4 指導計画（2時間扱い）

時	主な学習活動	主な評価
①	教科書の「おばあさんの話」を聞き、メモを取ってみる。次に教科書のメモ例を見て対応させながらもう一度聞く。メモを取る目的をおさえ、メモ例で工夫している点を話し合う。	事柄と事柄の関連を正しく聞き取るための工夫点を教科書の例から自分で見つける。(ワークシート・観察①②) 見つけた工夫点を積極的に発表し合うことができる。 【観察・発表①】
2	前時で話し合った工夫点を学級で共有する。順序や理由を表す言葉（接続語）の役割について理解し、教科書の「はがきの作り方」を聞き、メモを取る。	順序や理由を表す言葉（接続語）の役割について理解し、聞き取りの手がかりにしてメモを工夫している。 【観察・ワークシート①②③】

5 本時の指導

(1) 目標

目的に合わせたメモの取り方の工夫について話し合うことができる。

(2) 展開

学習活動・内容	支援の手立て・評価
1 校外学習の浄水場見学でメモを取って新聞を作ることを知り、学習意欲をもつ。	・社会科の校外学習で実用する学習であることを意識させ、意欲をもたせる。
2 本時の学習課題を確かめる。 メモの取り方のくふうについて話し合おう。 (1) 教科書の「おばあさんの話」を聞き、メモを取ってみる。既習事項(要点をメモする)をもとに自分なりに工夫する。 (2) 教科書 P59 のメモ例と対応させて	・要点がつかめない児童には、全て文で書き取るのではなく「大切だと思う言葉」だけを書けばよいことを個別に具体的に指導する。 ・自分なりの工夫ができている児童を称賛する。

もう一度「おばあさんの話」を聞く。 (3) 黒板掲示を見て、教科書のメモ例ではどの部分をメモしたのかを知り、要点とメモの取り方の工夫点を見つける。 3 4～5人のグループでメモ例を見て、どのような点が工夫されているか話し合う。 4 本時のまとめ・振り返り（自己評価）をし、次時の学習を知る。 ・メモを取る工夫をまとめ、別の話を聞いてメモを取る練習をすることを	・黒板に掲示した教科書本文（おばあさんの話）にマーカーで線を引き、メモした部分を確認させる。 ・教科書のメモ例から工夫されている点を見つけることができたか。 【ワークシート・観察①②】 ・1班の人数を4人（1班のみ5人）とし、全員が発言できるようにする。 ・積極的に話し合えたか。【観察・発表①】 ・ワークシートで自己評価させる。工夫点を見つけた数三つ以上A,二つB,一つ以下C 話し合いの発言2回以上A, 1回B,発言なしC ・工夫点を多く指摘できた児童を称賛する。 ・次時は別の話でメモ取りに挑戦することを知らせ、さらによいメモを取る意欲をもたせる。
--	--

(2) 指導の実際

① 目的意識をもって取り組ませる工夫

ア 学習内容を実用する機会をもたせる工夫

この単元の学習の直後に校外学習を予定していた。他の単元は国語科の学習の時間のみで話が終わってしまうことがほとんどである。国語の学習内容を他の教科で直接生かした実感ももてる機会は意外と少ないように思う。今回は、社会科の校外学習で、浄水場の職員の方の説明をメモして帰り、そのメモをもとに校外学習新聞を作ることの予告を導入部分とした。「新聞を作るためにメモを取る」という目的意識をもって学習に臨めるよう、意欲付けを行った。

イ 自分の課題を自覚させる

3学年で要点をメモする学習はしてきている。それを受けて「ヒントは既習事項のみ」の状態で聞き取りに挑戦させた。まずは「うまくいかない」と実感させることで、工夫点の話し合いの中で、それぞれの課題の解決策を真剣に探すことになった。

ウ 目標を意識させる

ワークシートに自己評価項目を載せておいたので、工夫点をいくつ以上見つけられればAの評価になるのか、事前に分かって探し始めることができた。ワークシートには「・」を一つ印刷しておき、4項目は書けるようにし、もちろんそれ以上見つけられればすばらしいということを言い添えた。(資料1)

② 伝え合い、学び合う

ア 国語の時間に限らず、友達の発表の中で、よいと思った事柄は(友)マークを付け、青鉛筆で書き足すことを、日頃からルールにしてある。(資料1)

イ 自己評価項目に発言回数を取り入れた。少なくとも三つは工夫点を見つけているので、その中から「○○さんと同じです」も含めて、2回以上発言することを目当

てとした。1 班の人数を 4 人（学級の人数の都合上、1 班のみ 5 人になった）としたので、全員が発言する時間が確保できた。

4 研究の結果

（1）仮説 1 について

メモの取り方の工夫を学習した後で、実際に浄水場での自分のメモをもとに新聞を作らなければならないということで、目的をはっきりと意識して取り組むことができた。仮説 2 の「間に合わない体験」をしたときに「新聞ができない、どうしよう」という発言が聞かれたことから、うかがわれる。

プロのアナウンサーなどがはっきり、ゆっくりと読んだ CD での聞き取りと違い、浄水場の方は説明の専門家ではないので、話し方は速く感じられ、4 年生には難しい言葉も出てきた。時々、助けを求めるように教師の方を振り返る児童もいた。聞き直しの質問をうながしたり、友達同士のメモを見せ合って確認させたり、場合によっては教師のメモを参考にさせたりした。「とても集中してメモを取ったので、疲れた」という感想がとても多かった。「新聞記者やテレビのキャスターのような人は毎日、こういう仕事をしている。」と話す、納得してうなずいていた。「実用することを学習した」という実感は十分に感じられたようである。

（2）仮説 2 について

3 学年で要点をメモする学習はしているものの、全ての児童にその内容が定着しているわけではない。資料 2－1 の児童は 3 人とも、文章で書こうとしたために話すスピードについていけず、途中で諦めてしまっている。「間に合わない。」という危機感也是十分にもつことができた。

資料 2－2 の児童は箇条書きを試みており、2 人ともかなり正確に要点をとらえている。しかし、どちらもこのメモを読んで料理をすることできる内容にまでは至っていない。「要点のとらえ方がうまくいかない。」と感じており、工夫点を見つける話し合いに真剣に取り組むことができた。

（3）仮説 3 について

「国語だから文を書かなくてはいけない」と児童たちは考えていたようで、図を書いた例や矢印、バツ印などの記号を用いた例に驚いていた。この学習の後、連絡帳の持ち物で自分が忘れそうな物に丸印などを付けてくる児童が見られるようになった。

また、「大切な部分に○印を付ける。」という工夫点を見つけた後で、「星印でもいいの？」「○の方が速いよ。」といった会話も聞かれ、目立たせる工夫にも楽しく取り組むことができていた。（資料 3）

（4）仮説 4 について

既習事項を応用し「言い切りの言葉で書いている。」などの発表ができた。予想の倍近い量の指摘ができ、意欲の高さが感じられた。（資料 4）

また初めて知った言葉を「この言葉を使うと短く書ける」と挙げるなど、個人のワークシート上でも、かなり多くの事柄を見つけることができた。

ワークシートの自己評価欄（資料 1）に工夫点を見つけられた数による評価と話し合いでの発言回数による評価の基準を載せたので、その数を意識しながら活動することができた。丸印を付けながら「A だ。」と喜ぶ姿が多く見られた。

また、第 2 時には別の内容の聞き取りを行ったが、資料 5 のように最初に目的を書き、番号をふって箇条書きにし、矢印などの記号を使う工夫がどの児童にも見られた。

5 今後の課題

（1）担当教師の演技力

最初に放送を聞いてメモを取ってみたときに、子どもたちから「間に合わない。」と声が上がっていた。この声を、もっと大きく取り上げ、「間に合わないね。どうす

ればいいと思う？」とつなげていくと効果が大きかったらうとの指摘をいただいた。

(2) 自作ワークシートの改善

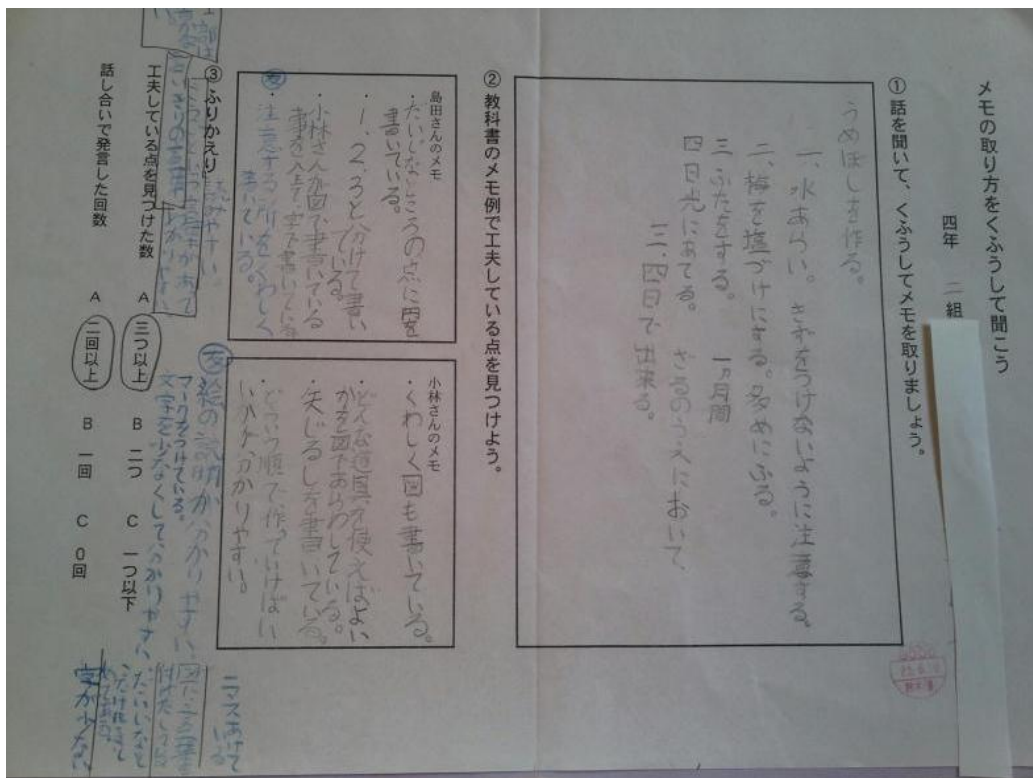
学び合いの場面で、友達の発表の中から、自分の気付かなかった工夫点を見つけてメモすることが、とても上手にできていた。そのための記入欄がワークシートに不足しており、自己評価欄にまで、はみだしてたくさん書いている児童が少なくなかった。児童の意欲をさらに高めるワークシートの工夫改善を進めたい。

(3) 作品例の掲示のタイミング

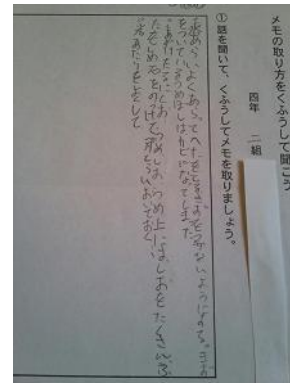
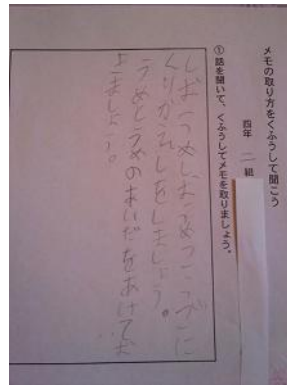
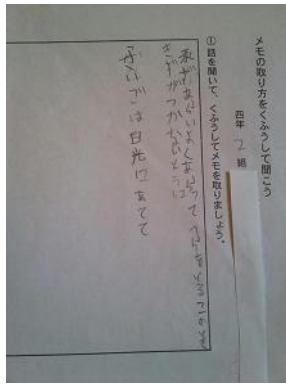
1時間の中で掲示物が盛りだくさんになりすぎるかと考え、教科書のメモ作品例(資料6)の掲示は第2時にし、第1時での児童の発表内容は箇条書きにした。しかし、予想以上に発表することができ、箇条書きでは板書しきれなくなりそうだった。児童が工夫点を発表しているときに作品例を掲示して印を付けていき、第2時の確認ではそれを見直す、という形の方が分かりやすかったかもしれない。1時間の流れが見渡せるのが板書の基本であるが、ホワイトボードを使うなどして、掲示の幅を広げる工夫をしていきたいと思う。

6 終わりに

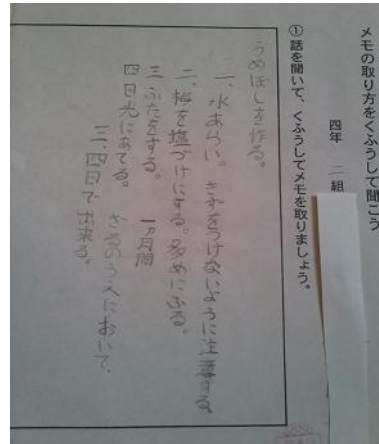
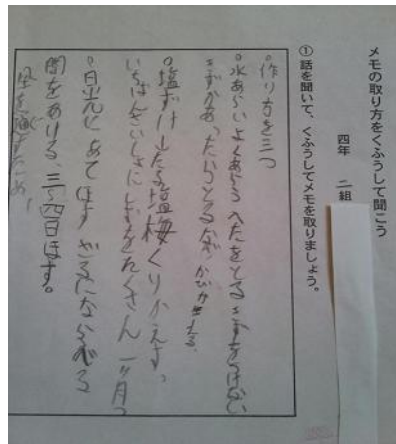
今回は、目的意識をもって学習に取り組ませるために、社会科の校外学習と関連づけて計画を立てた。実生活で生きてはたらく学習を実感させるには、国語で学習した表現を理科や社会科で実用し、音楽や算数の知識を国語の読み取りに生かすといった教科間の連携が不可欠である。他教科も一人の担任が指導する小学校では、教科担任制の中学校よりも教科間の連携が細かく取りやすい。この特性を生かして、その単元の時間だけで終わってしまわない授業を企画していきたいと思う。



資料1 児童のワークシート 全体



資料 2-1 児童のワークシート



資料 2-2 児童のワークシート



資料 3 学び合いの様子

